

J R上場4社 第3四半期決算 全事業回復し、増収増益

通期は4社とも黒字見込む

J R東日本、東海、西日本、九州の上場4社は、2023年3月期第3四半期決算(2023年12月31日)を発表した。コロナ禍の影響があるものの、全国旅行支援や水際対策の緩和などから旅客事業、物流事業が共に回復して売り上げが増加。4社とも増収増益となった。通期決算は4社とも黒字を見込んでいる。

運輸が大幅増収

J R東日本
このほか、クレジットカード事業の売り上げが増加した。

J R東海
2023年3月期通期決算予想は、売上高が前年同期比16・5%増の1兆7270億8400万円、営業利益が1120億6000万円(前年同期比42・5%増の3500万円)の赤字、経常利益が874億7000万円(同6・60億4千万円の赤字)、純利益が725億9500万円(同8377億5100万円の赤字)と、増収増益で3期ぶりの黒字となる。コロナ禍からの回復で運輸事業が大幅増収となるなど、全セグメントが黒字転じた。

土休日がけん引

J R東海
決算は、売上高が前年同期比48・5%増の1兆915億1000万円、営業利益が1000万円、増収増益で3期ぶりの黒字となる。コロナ禍からの回復で運輸事業が大幅増収となるなど、全セグメントが黒字転じた。

2期連続増収に

J R九州
決算は、売上高が前年同期比17・3%増の2612億8千万円、営業利益が2288千万円、増収増益で2期連続増収となった。

コスト800億削減

J R西日本
2023年3月期通期決算予想は、売上高が前年同期比33・5%増の9700億1000万円、営業利益が3000億円、経常利益が1350億円、純利益が580億円と、増収増益で2期連続増収となった。

純利益を黒字化

JAL
2023年3月期通期決算予想は、売上高が前年同期比10・7%増の1兆555億円、営業利益が9000万円、増収増益で2期連続増収となった。

ANAは上方修正

ANA
2023年3月期通期決算予想は、売上高が前年同期比10・7%増の1兆555億円、営業利益が9000万円、増収増益で2期連続増収となった。

3年ぶりに両社が黒字

JALとANAは、2023年3月期通期決算で、3年ぶりに両社が黒字となった。これは、両社の旅客事業が回復したことが主な要因と見られる。

鳥海高太郎の交通トレンド分析

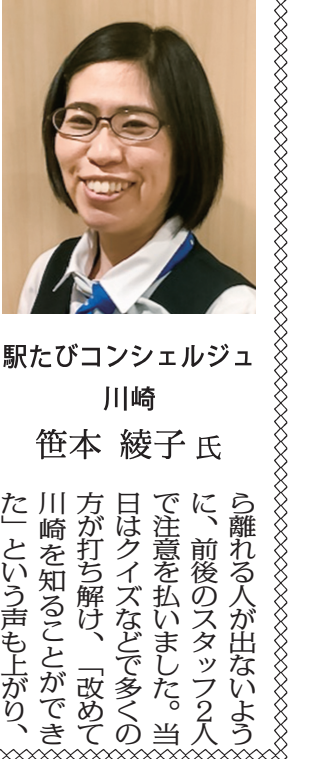


昨年11月末に販売、ANAセールでの旅行者目立つ

ANA
昨年11月29日から3日間、ANAが創立70周年を記念して、ANAセールを開催した。このセールでは、ANAのフライトチケットが大幅に値下げされた。また、ANAのフライトチケットの予約数も増加した。

地域共創

川崎大師
川崎大師は、2023年3月24日から、地域共創プロジェクトを開始した。このプロジェクトでは、川崎大師の観光資源を活用し、地域の活性化を図る。



川崎大師は、2023年3月24日から、地域共創プロジェクトを開始した。このプロジェクトでは、川崎大師の観光資源を活用し、地域の活性化を図る。

川崎大師は、2023年3月24日から、地域共創プロジェクトを開始した。このプロジェクトでは、川崎大師の観光資源を活用し、地域の活性化を図る。

川崎大師は、2023年3月24日から、地域共創プロジェクトを開始した。このプロジェクトでは、川崎大師の観光資源を活用し、地域の活性化を図る。

川崎大師は、2023年3月24日から、地域共創プロジェクトを開始した。このプロジェクトでは、川崎大師の観光資源を活用し、地域の活性化を図る。

川崎大師は、2023年3月24日から、地域共創プロジェクトを開始した。このプロジェクトでは、川崎大師の観光資源を活用し、地域の活性化を図る。

川崎大師は、2023年3月24日から、地域共創プロジェクトを開始した。このプロジェクトでは、川崎大師の観光資源を活用し、地域の活性化を図る。

川崎大師は、2023年3月24日から、地域共創プロジェクトを開始した。このプロジェクトでは、川崎大師の観光資源を活用し、地域の活性化を図る。

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸

旅行業・運輸